

令和6年度 城西子ども園

園評価及び学校関係者評価

城西子ども園では、令和6年度、教育保育等及びその他の運営の状況について、保育者及び保護者におけるアンケート調査を踏まえ、全保育者による共通理解の下で自己評価を行い、さらに、自己評価の客観性を高めるために、学校関係者評価委員会を設け、関係者による評価を行いその結果を公表致します。

令和7年3月 城西子ども園 園長 篠塚祐英

《評価の観点》

教育・保育の基本

教育・保育の内容と質の向上

保健・環境

食育

連携《保護者・地域・小学校》

保護者・保育者アンケート評価判定基準
(保護者、保育者それぞれの平均値を平均した値)

A そう思う+ややそう思う 75%以上

B そう思う+ややそう思うが60%以上74%未満

C そう思う+ややそう思う60%未満

関係者評価の基準

A 園の評価を納得できる

B 園の評価を大体納得できる

C 園の評価を納得できない

評価観点	内容	園の評価		保育者+保護者アンケート結果と判定	関係者評価	
		判定	取り組み状況と課題		判定	講評
基本	園の保育理念や目標などについては、入園に当たっての重要事項説明会や城西便りに掲載するなどして理解に努めています。 ★これまでに園の保育理念や目標などの説明を受けていますか。	A	保護者に保育理念や目標を理解してもらうこと。さらに、保育者自身が十分に理解し、保育に当たることが大切。	A 98, 2%	A	・園長先生はじめ先生方が子ども達一人一人により沿い、保育目標に沿って自主性・安心感・協同性・意欲・感性に取り組んでおられる。
教育保育の内容と質の向上	保育者は、子どもが今何に興味関心をもっているか、どうしたらもっと遊びが広がっていくかなどを考え、見通しをもった計画を立て保育に当たっています。 ★保育者は子どもの発達や興味関心に応じた保育に努めていると思いますか。	A	「子ども達と一緒に考えること」に力を注いだ。行事や遊びを広げていく過程においても子ども達との対話を大切にしながら、子ども達の言葉を聴く、心の声を聴くことで、子ども達も遊びたい遊びや作りたいものを作ることができ、とても楽しく過ごしてくれたと思う。また、一人一人の発達や興味に沿った絵本を用意することで、言葉の発達やあそびの展開にも繋がりが日頃の遊びが発表会の劇遊びへと繋がっていった。	A 98, 9%	A	・保護者に保育理念や目標を理解してもらうには保育者とその都度、子どもの姿を保育の話の中でわかりやすく伝えていく事が大切。 ・保育参加で子ども達と楽しみながら園で大切にしていることを伝えていくことは「基本」の理解に繋がる。
	保育者は保育の質の向上のために、園外や園内の研修に取り組みながら、子どもの主体的性を育む手だてを考えています。 ★保育者は、子ども自身が”やってみよう”と思うような保育の工夫に努めていると思いますか。	A	今後も、学びに繋がる保育の日常を丁寧に保護者に伝えることが大事と考える。	A 98, 9%	A	・「子ども達と一緒に考えること」に力を注いでいることはとても素晴らしいと思う。これからは子ども達の言葉、心の声を聴く事を大切にしたい。
	保育者は、絵本に親しむ環境を整備し読み聞かせを心掛け、絵本から広がる遊びを大事にしています。★子ども達には言葉やイメージの世界が広がっていると思いますか。	A	・2回の保育参観を通し子ども達の”思い・考え・願い”を基に活動が始まり、それが結果として年間を通したテーマにな手織り、活動の中で子ども達の成長を感じることが出来た。	A 99%	A	・丁寧に教育活動を進められている。どの評価項目も高い達成状況で保護者の理解を得ながら、信頼関係に根ざした運営がなされている。
	保育者は、行事が、子ども達にとってキラキラワクワクするものになるようにと心がけています。 ★お子さんはいろいろな行事を楽しんでいましたか。	A	・園児一人一人を大切にされた教育・保育の結果として、保護者の安心感や感謝の気持ちが伝わってくる。	A 99%	A	・保護者が園を信頼され、安心して子どもを預けられていることが評価結果から伝わりました。素晴らしいと思います。これも、先生方が日々、子ども達に愛情をもって接し、よりよい保育を目指し研修や話し合いをされ、保護者に共感し適切なアドバイス等に努められているからでしょう。
保健・環境	保育者は毎月、園舎や遊具の点検、クラスハザードマップや安全チェックリストでの確認や、玩具などの消毒や環境の整備に努めています。又、換気や密の回避、手洗い励行などできる限りの感染対策を心がけています。 ★保育者は、子どもが安心して園で過ごせるように努力していると思いますか。	A	新型コロナウイルスが5類に移行した事から、次第と衛生環境が緩みがち。感染の状況を把握しながら対応していく。今年度は新型コロナにかわってインフルエンザの感染者が例年に比べて多く見られた。佐賀市生活安全課より2回の交通指導に来て頂いた。また、散歩マップを見直し、危険箇所を職員間で共有した。	A 99, 5%	A	・子どもへの保育だけではなく保護者支援もますます大きな役割になると思います。
	保育者は、安全計画に従って、毎月の防災の日に火災、地震、風水害、不審者などの避難訓練や交通安全教室、散歩時の交通指導を行っています。 ★保育者は、安全、防犯に努めていると思いますか。	A		A 99, 5%	A	
連携支援	園やクラスの状況を、育ちのレポートや園だより、クラス便り、ホームページなどで知らせたり、写真やマップ等を使って保育が見えるように努めています。今年度は保育参加や秋フェスを行うことができました。 ★クラスの状況や子ども達の学びの様子を知るのに玄関の「キラキラがいっぱい」の掲示物や参観時の資料などは役に立ちましたか。	A	今年度の秋フェスは、親子で楽しんでもらえるよう各クラスで遊びの環境を工夫した。保育参加では子ども達の園での様子を知ってもらおうと共に、楽しみを共有してもらおう。また、1月の年長児保育参観では遊びの中で育まれる学びの育ちを理解してもらえたのではないだろうか。	A 97, 5%	A	
	★園や保育者は保護者から寄せられたご意見や要望について誠意ある対応に努めていると思いますか。	A		A 98%	A	

食育	野菜の生長を見たり、触ったり、採ったり、匂いを嗅いだりなどの体験を大切にしています。また、切ったり、丸めたり飾ったりなど、試したり工夫したりして楽しめる行事やクッキングの機会を心がけています。 ★こうした取り組みは子どもが食べる喜びを感じたり、食べ物に興味をもつきっかけとなると思いませんか。	A	じゃがいもの種植えから草取り収穫や年長児の夏野菜栽培の体験や収穫した物を給食室に届け食事に見つけて喜び、自分達でクッキングに使って食べる喜びを感じたりしている。年長児は干し柿作りながら渋柿が変化する様を触ったり匂いを嗅いだりして実感した。特に、3歳児はクッキングの機会を多く持つことで、絵本の中の食べ物の名前や特徴を実物で確認してよこんだ。	A 98%	A	すべきことがたくさんの中でなかなか先生方同士がゆっくり語り合う時間が少ないことでしょう。しかし、限られた時間の中で情報交換したり子どもの成長と共に喜び合われたりしている姿に、素晴らしいと感じています。園長先生を中心にこれから”チームようさい”で頑張ってください。 ・食育すばらしいです！！ ・子どもの採って大切なことは、①安心・安全②居場所③質の高い教育・保育である。城西子ども園では、この3つに向けた取り組みが良くなされていると思う。 ・「環境で心が動き、体が動く」まさにその通りだと考える。 ・遊びの中で子ども達の様々な学びや育ちを感じる。また、異年齢で遊ぶ取り組みはとても大切だと思う。 ・西岡小学校との連携はとても素晴らしいと思う。すぐ近くに小学校がある環境をこれからもいかして欲しい。 ・保護者の先生方への感謝の言葉を読んで、日々の保育への取り組みへの素晴らしいさを感じる。
	保育参加時の会食やBookcafeでのおやつ試食。また、毎月食育に関する情報や献立の紹介などを行っています「今日のランチ」の写真を事務室カウンターに掲示したりしています。★これらは、園の給食やおやつを知ってもらうことに役立っていると思いませんか。	A		A 98%	A	
教育保育の 内容と質の 向上 (未 満 児)	0,1,2歳児は伸び伸びと体を動かし、この時期の遊びが充実したものとなるよう、個別の計画を立て、一人一人の興味や関心にあった環境を心掛けています。 ★保育者は、子どもが自ら体を動かそうとする意欲を育てていると思いませんか。	A	0歳児でも”こうしたい”と言う思いはしっかりもっているの、その思いに寄り添いながら関わることを念頭に置き、その結果子ども達と心を通わすことができたと思う。子どもの発達や興味関心に応じた環境を用意することで、子ども達の心が動き、体が動くと考えられる。猛暑で、外に出ることが難しい日々が続いたが、そうでないときはできる限り散歩や戸外遊びを取り入れるようにした。	A 100%	A	
	保育者は優しく声をかけたり、スキンシップをとったりしながら子どもたちに接するように心掛けています。★お子さんは好きな先生と安心感を持って過ごしていると思いませんか。	A		A 100%	A	
	保育者は、散歩に出かけたり、戸外遊びを行ったり、外気に触れながら自然に触れる機会を多く取り入れる様にしています。★子ども達は自然に親しみ、触れあう中で冷たい、暖かい、きれいな、不思議などの感覚や感性が育っていると思いませんか。	A		A 100%	A	
教育保育の 内容と質の 向上 (以 上 児)	保育者は、子どもが心に思ったことや感じたこと、考えたことを言葉や歌やダンス、あるいは描いたり作ったりと自由に表現できる環境作りを努めています★保育者は、子ども達の表現しようとする意欲を受け止め、楽しんで表現できるよう援助していると思いませんか	A	子ども達の思いを探り、保育をイメージし、環境構成、援助配慮考えることに力を注いだ。そうすることで、遊びの展開、広がり、繋がりが、深まりを実感し、子どもと共に遊びを楽しむことができた。子ども達の”もっとやりたい””もっとしりたい”は”自分だけで”から”みんなと協力して”へととなり、そこに、”折り合いをつける”力も育ってきた。今年度は意識して異年齢で遊ぶ時間を設定し、次第とその時間を増やしていった。すると、思いやりや憧れの心の育ちが見えてきた。昨年の年長児の紙飛行機飛ばしが受け継がれている。	A 98%	A	・子どもの成長を感じる喜びを保護者と共に感じ共有していることが読み取れる。一つ一つ丁寧に子どもと向き合って関わってあるからこそだと思います。 ・子どもを預けることに安心を覚える保護者は多いと思う。園児も活き活きとしていて、この園で生活できる子どもは幸せだと感じる。職員は忙しくて大変だと思うが、負担軽減も含め、どんどん新しいことを取り入れ工夫し、よりよい園作りを目指して欲しい。
	保育者は仲立ちをしながら、子ども達が生活や遊びをよりよくしようとする姿を認めたり励ましたりしながら関わっています。 ★保育者は生活や遊びの中で、してよいことや悪いこと、ルールがあることや自分も友達も大切なことなど、子どもの道徳心や規範の芽生えを育もうと努めていると思いませんか。	A		A 98%	A	
	保育者は、意図的に同年齢、異年齢で過ごす時間を設けながら、同年齢と異年齢の中で育つそれぞれの良さを大切にしようとしています。★異年齢児との関わりの中で”みようみまね”の伝承や、思いやりの心、あこがれの心などが育っていると思いませんか。	A		A 99%	A	・職員の自己評価結果を見ると高い評価結果になっている項目が多く、職員間で取り組み内容が共有され実践されていることがうかがえる。 ・保育者が保育実践の中で、常に考える保育者として成長している。組織が大きいのでチームワークを高める「同僚性」と「社会人の基礎」を学び続けることを望みたい。
連携支援	小学校と連携を取りながら、小学生を招待してじゃがいもパーティーや卒業を祝う会を設けたり小学生との交流会や体験入学、あるいは小学校の先生方に保育を参観してもらったり、10の姿の共通理解のための研修会を行ったりしています。 ★園や保育者は子ども達が小学校への憧れや期待をもち、スムーズに入学できるよう努めていると思いませんか。	A	小学生が来園したり招待を受けて学校を訪問したりして交流を行った。教室に入り、机や椅子、黒板やタブレットなどを見て触り、小学校が身近となり楽しみにしている。	A 93%	A	・園の先生方の子どもへの愛情が良く伝わってきます。今後とも子ども達が活き活きと楽しく過ごすことが出来るようにご指導よろしくお願ひします。

関係者評価委員会による評価を終えて

関係者評価委員の皆様、すべての項目においてAの評価を頂いた。最後に「保護者の意見から、保護者との情報交換・共有が十分でなかった場面もあったようです。保護者の手に渡るもの（お便り、子どもの作品、お誕生カードなど）には細心の注意をお願いします。また、コミュニケーションの機会を少しでも多く持つように努めて下さい。日々の受け渡しの際の言葉かけや連絡帳の活用を大切にして、保護者と園（担任）が情報共有していくことが重要だと思います」とのご意見を頂いた。また、同時に、「園の理念目標・方針には揺るぎなく、自信を持って城西こども園の幼児教育に当たって下さい」とのご助言も頂いた。

保育者は人的環境として教育・保育に重要な役割を果たす存在であること。いつでも、どこでも、どんなときでも子ども達に見られているということ。子ども達は先生の真似をすること。そうしたことを自覚し、自己を振り返り、子ども達や保護者と接する事に努めていく。時には「うっかり」といったこともあるだろう。そうした場面解決のためにも同僚性が求められるところである。よりよい保育のために”何でも話し合えるコミュニケーション作り”が課題である。

今後も、保護者のみな様、関係者評価委員の方々のご意見を受け止め、園として、また保育者としてのよりよい保育の質を探っていきたいと思う。